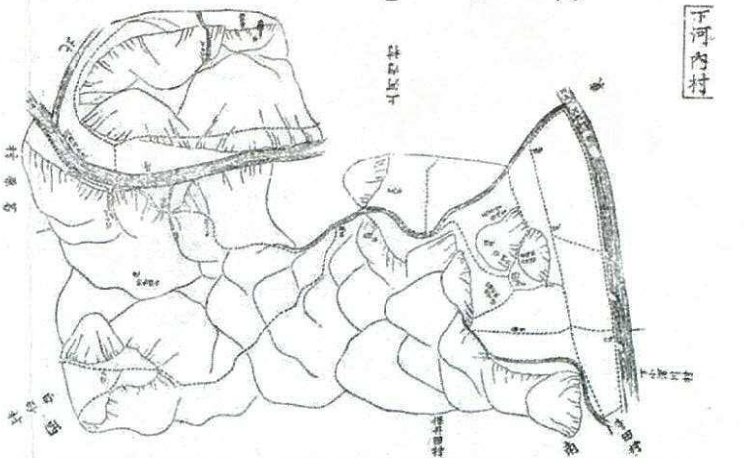


広島藩のお抱え絵師  
岡岷山の描いた江戸時代の河内峠を歩く

今から二百年あまり前の江戸時代後期、一七九七年の閏八月(新暦では十月中旬)のことです、  
安藝の国広島藩の絵師、岡岷山(おかみんさん)は藩主浅野重晟(しげあきら)公の許可を得て、都志見(つしみ)の駒が瀧まで、写生の旅をおこないました。旅から帰ると旅日記風の旅行報告書である「都志見往来日記」と要所要所を描いた「都志見往来諸勝図」を提出しました。  
これらは昭和初期に浅野家から寄贈され、浅野図書館にありました。原爆投下直前に疎開して焼失をまぬがれ、広島市中央図書館で保管されマイクロフィルムとして公開されています。  
岷山は、都志見の駒が瀧だけでなく、途中の風景を写生することも目的としたようで、たくさん絵を残しています。  
今の風景と絵を比較してみてください。  
さあ、さっそく江戸時代から続く小道を歩いてみましょう。



下河内村

「藝藩通志」(二八二五)

江戸後期の藩内の包括的な地誌。隠居した重晟(しげあきら)公を継いだ斉賢(なりたか)公は、儒者の頼杏平(らいきやうへい)に古い国郡志の改訂を命じた。編集作業が本格化したのは一八一八年からで、村々から報告書を提出させて一八二五年に完成した。  
この図は、下河内村に添えられた絵図。河内峠を挟んで、河内も白川も共に下白川村に入っているのがみてとれて、峠を越えた強い結びつきが良くわかる。  
絵図は概念的なもので、距離や方向は正確ではない。

「江戸ゆきツアー」のコース

「江戸ゆきツアー」では、岡岷山がたどった行程を五つに分けて、それぞれ半日のコースとして設定しています。二時間の短縮コースもあるので、スケジュールや体力に応じて選択してください。



佐々木さん

守下さん

[発行・お問い合わせ]

「江戸時代から残る、湯来地区の古道を歩いてみようプロジェクト」

NPO法人湯来観光地域づくり公社

広島市佐伯区湯来町大字多田2545

TEL 0829-85-0670

HP: <http://e-yuki.net> 「となりの里山」

河内峠コース編

(湯来地域外)

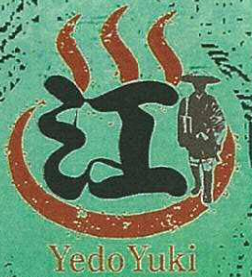
# 江戸の湯来を歩く

八幡川添いの具道が利用されるようになるのは明治時代になってからのことです、それまでは河内峠越えの道が使われていました。江戸時代の旅人になって河内峠を歩いてみませんか



## 「江戸の湯来を歩く」江戸時代から残る、湯来地区の古道を歩いてみよう

湯来地区には、広い自動車道路はありませんが、あちこちに小道が残っていて、のんびり歩くことができます。このような小道をテクテク歩いてみると、これらの小道の歴史を知りたくなりました。このようないきさつから、私たちは、江戸時代からあった古道を復元する作業をはじめました。そのために使った資料は、「芸藩通志」(1825)の絵図や、藩主浅野家の御抱え絵師、岡岷山の「都志見往来日記」と「都志見往来諸勝図」(1797)、古者からの聞き取りなどです。こうして判明した江戸時代の街道について、みなさんに楽しく歩いていただけるルートを選んで、パンフレットを作成することにしました。河内峠は湯来町ではありませんが、湯来と五日市を結ぶ主要な街道でした。さあ、このパンフレットを片手に、江戸時代からの歴史がある、峠越えの山道を、のんびりと歩いてみましょう。



定価/100円





河内峠



宮婦ろ



寺田



ダイヤモンドソウ (かとう蘭?)



# 江戸の湯来を歩く

## ①茶屋跡

岷山の絵には寺田とありま  
すが、高速道路の下、川坂  
あたりと思われる。  
「保井田を出て、寺田を過  
ぎ、下河内に入るところに  
は、川端に茶屋が三軒ある。  
川には魚を獲るための小さ  
な梁がある」  
茶屋と鮎を漁る梁がありま  
した。川添いの道から分か  
れて河内峠へと上って行く  
道も描かれています。

## ②掘切り道

河内峠へは、彩が丘方面へ  
向かって行き、すぐに右に  
折れます。その先をさらに  
左に曲がります。  
「これから山に登る。道は  
次第に険しくなる。山の両  
斜面を切りとった岸の高さ  
三、四間ほどの掘切り道が  
ありその間を通過する」こ  
こは土井岡と呼ばれる山城  
の南にあたり、今でも切り  
通しになっています。

## ⑤殿畠

昔は、大杉への分かれ道で  
田畑があったといえます。  
その田は洪水で流され年貢  
が免除されました。  
当時は、田畑が流されても  
年貢は免除にならず共同で  
負担するのが普通でした。  
特別な計らいであるため、  
その旨を記した「免租の碑」  
が建てられていましたが、  
一九九九年の豪雨災害で消  
失しました。

## ⑦河内峠

今は木が生い茂っています  
が、昔は見晴らしが良かつ  
たのでしょうか。  
「しばらく草の上に乗って  
眺めたが、北の大山は、険  
しくそびえたっていて、そ  
の中腹に山仕事に使う細い  
樵路がある。  
山の下には谷川が帯のよう  
に流れている。  
この川を上から見ると、  
所々に淵があって、その部  
分は、あい色に映えている」  
日記の文章です。

## ⑨善六の墓

湯来の民話では、大きな杵  
を使って年貢を納めさせて  
余分を着服した庄屋と不正  
を見逃した下役人の悪行  
を、参勤交代で江戸に向か  
う島津の行列にむかって海  
田市の先で直訴し刑死した  
と伝えています。  
この民話の背景には、吉長  
の改革に反対しておこした  
一七七八年の「享保一揆」  
があるようです。

## ③落下現場

「峠への道を半里ばかり登  
ると、左側の山は高く、右  
側の谷(荒谷川)の方は深  
くなっている。今年の夏の  
頃、水内へ湯治にきた人が  
夜中あやまって、ここから  
谷ぞいに落ちた。およそ十  
四、五間ほどあったが、幸  
い死には至らなかった」  
夜になっても湯の山温泉に  
向かう旅人が絶えなかった  
のでしようね。

## ④宮風呂さん

新宮神社。昔の交通の要所  
にあった神社で、社殿の背  
後は大きな岩の崖になっ  
ています。  
明治期、全国の神社で合祀  
が行われましたが、資産が  
七百円以上あったので合祀  
を免れたといわれています。  
なお、付近には冷泉が湧い  
ていたようですが、風呂の  
跡のようなものは見当たり  
ません。

## ⑥瀧の水

ここは、峠を上り下りする  
旅人の休憩場所になってい  
ました。今は災害で埋めら  
れてしまいましたが、冷た  
くておいしい水が流れてい  
たそうです。  
この少し上流に堰堤が築か  
れています。  
また、ここで分かれて荒谷  
川に架かる橋を渡る林道  
は、大杉、中伏を通り、葛  
原の土井へと向います。

## ⑧つづら坂

河内からの道は比較的緩  
やかですが白川がわは急斜  
面を斜めに上り下りするよ  
う道がつけられています。  
それでもなお、急な場所  
では斜面に対し左右に折れ曲  
がりながら通う、つづら坂  
になっています。  
人もそうですが、荷物を積  
んだ馬もにとっても、大変  
だったでしょうね。

## ⑩客人神社

客人と書いて「まろうど」  
と読みます。岷山は「客大  
明神」と書いています。  
「右の方の山に添って道が  
ある。道の右には客人大明  
神の社があって、かしお谷  
に沿って山に登っていく。  
峠に着いても見通しは良く  
ない。この山を下って上伏  
谷に到着した」と書きます  
が、十文字では寝ていたと  
告白しています。